

宮田直彦のエリオット波動レポート

マーケット見通し(短期アップデート) 12 月 24 日 9:34AM 更新

[日経平均]

【当面の想定レンジ】 34,000～42,000 円

[NY ダウ]

【当面の想定レンジ】 38,500～44,000 ドル

[ナスダック]

【当面の想定レンジ】 18,000～20,200

[米ドル/円]

【当面の想定レンジ】 137.000～158.000 円

[ドルインデックス(ドル指数)]

【当面の想定レンジ】 99.578～109.000

エリオット波動とは

株式・為替動向を予想する心強いテクニカル手法

米国人ラルフ・ネルソン・エリオットが提唱した、今後の株式や為替など市場価格の動向を予想する手法です。相場は5つの上昇波と3つの下降波（合計8つの波）で一つの周期を作るパターンに従って展開するとされます。

このパターンは集団心理によるもので、数分から数十年といった様々な時間軸において観察されます。

フィボナッチ数列、黄金分割比率をチャート分析に初めて導入したのもエリオットです。

日経平均



【週足 エリオット波動分析】

42,426 円(7/11 高値)以来の第(4)波(インターミディエイト級)中 A 波は、31,156 円(8/5 安値)を以て終わったとみられます(4 年サイクル底)。

あるいは、8 月安値から既に第(5)波の上昇が進行中かもしれません。

どちらの見方によっても、来年の日経平均は 42,426 円を上抜き、最高値を更新する可能性が高い、と思われます。第(5)波ターゲットとして[4 万 3000 円-4 万 5000 円]を想定しています。

第(5)波上昇を以て、5 年間にわたる強気相場(プライマリー第③波)は完成し(『黄金の 3 年間』の完結)、以降はプライマリー第④波による停滞局面に移るでしょう。

日経平均予想 EPS の持ち直し基調は続いています。12 月 23 日の EPS は 2483 円と 10 月 5 日の 2514 円に接近しており、今後の動向が引き続き注目されます。



【日足 エリオット波動分析】

(プリファード(優先)カウント)

31,156 円(8/5 安値)からの、第(4)波中 B 波によるリバウンドは、40,257 円(10/15 高値)を以て終了した、とみられます。

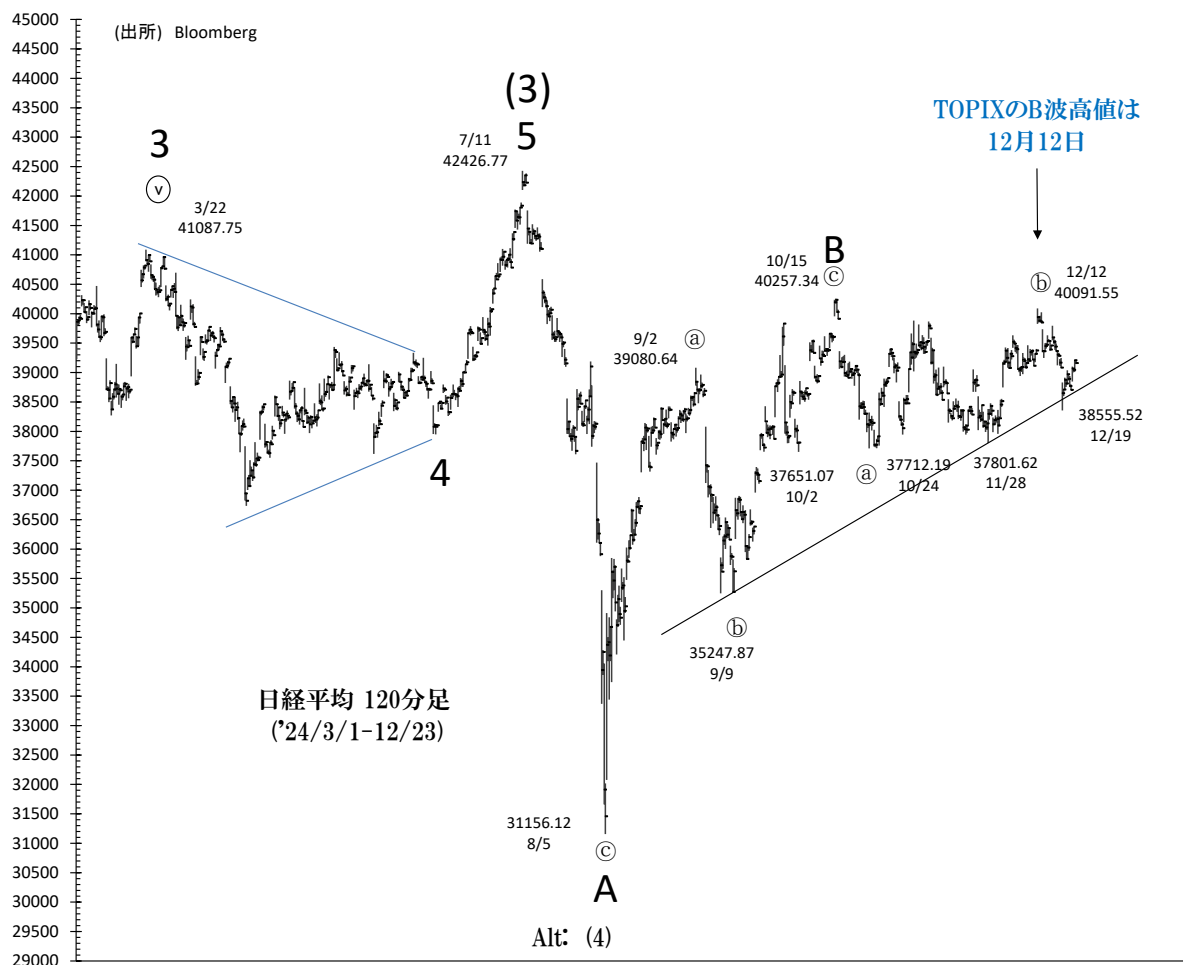
12 月 12 日の「アイランド」が暗示していたように、日経平均は短期的な下げ局面に入った、とみられます。25 年 1 月～2 月にも 35,247 円(9/9 安値)を下回る可能性があり、それを以て 24 年 8 月「一番底」に次ぐ「二番底」示現となるでしょう。

その後、数週間～数カ月間のもみ合いの間に上昇エネルギーを蓄え、日経平均は第(5)波によって、もみ合いから上放れるでしょう。

(オルタナティブ(代替)カウント)

31,156 円(8/5 安値)は第(4)波の終点底であり、そこから第(5)波による上昇が進行中です。

この見方によると日経平均は「二番底」を付けることなく、じり高基調を続けるでしょう。そんな中、25 年の前半にも高値更新がありそうです。



【時間足 エリオット波動分析】

当面の日経平均の見通しは以下の二通りです。

[プリファード(優先)カウント] 35,247 円を下回り、「二番底」を形成

7 月高値以来の第(4)波は[トライアングル(A-B-C-D-E)]を形成中です。

31,156 円(8/5 安値)からの B 波((a)-(b)-(c))によるリバウンドは 40,257 円(10/15 高値)で終わり、そこからは C 波((a)-(b)-(c))による下げが進行中です。

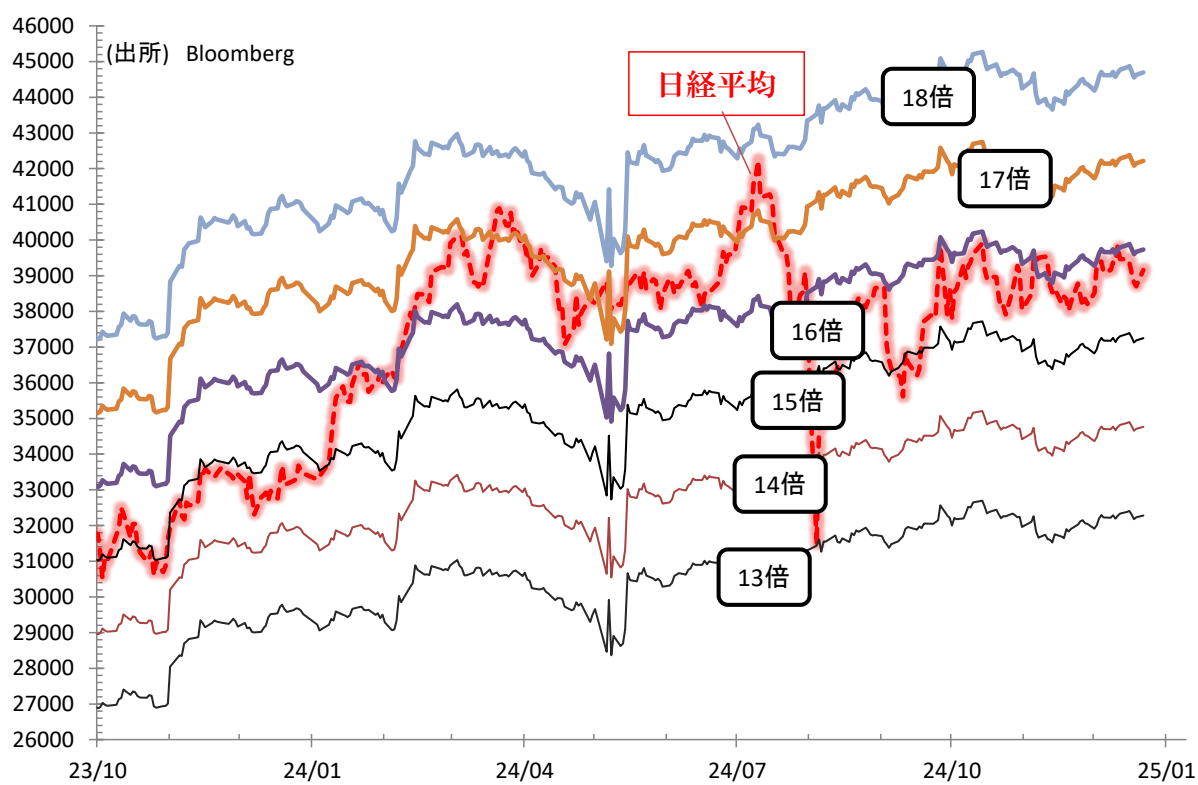
9 月と 11 月の安値同士を通るサポートライン付近から、足元リバウンドとなっています。もっとも、**3 万 9000 円～3 万 9500 円(8 月 5 日以降で累積出来高がもっとも多い価格帯)**では戻り売り圧力が強いとみられます。

今後 37,801 円(11/28 安値)を下抜くと、C 波による下落基調が鮮明になるでしょう。最終的に C 波は 35,247 円(9/9 安値)を下回り、8 月安値に次ぐ「二番底」を付けるでしょう。

[オルタナティブ(代替)カウント] 第(5)波は「エンディング・ダイアゴナル」

31,156 円(8/5 安値)からは第(5)波による上昇であり、そのパターンは波の重複が目立つ「エンディング・ダイアゴナル」です。今後 42,426 円(7/11 高値)を上抜くと TOPIX との弱気ダイバージェンスが解消され、強気モードが戻ってくるでしょう。

[予想 PER 別の日経平均水準]



NY ダウ



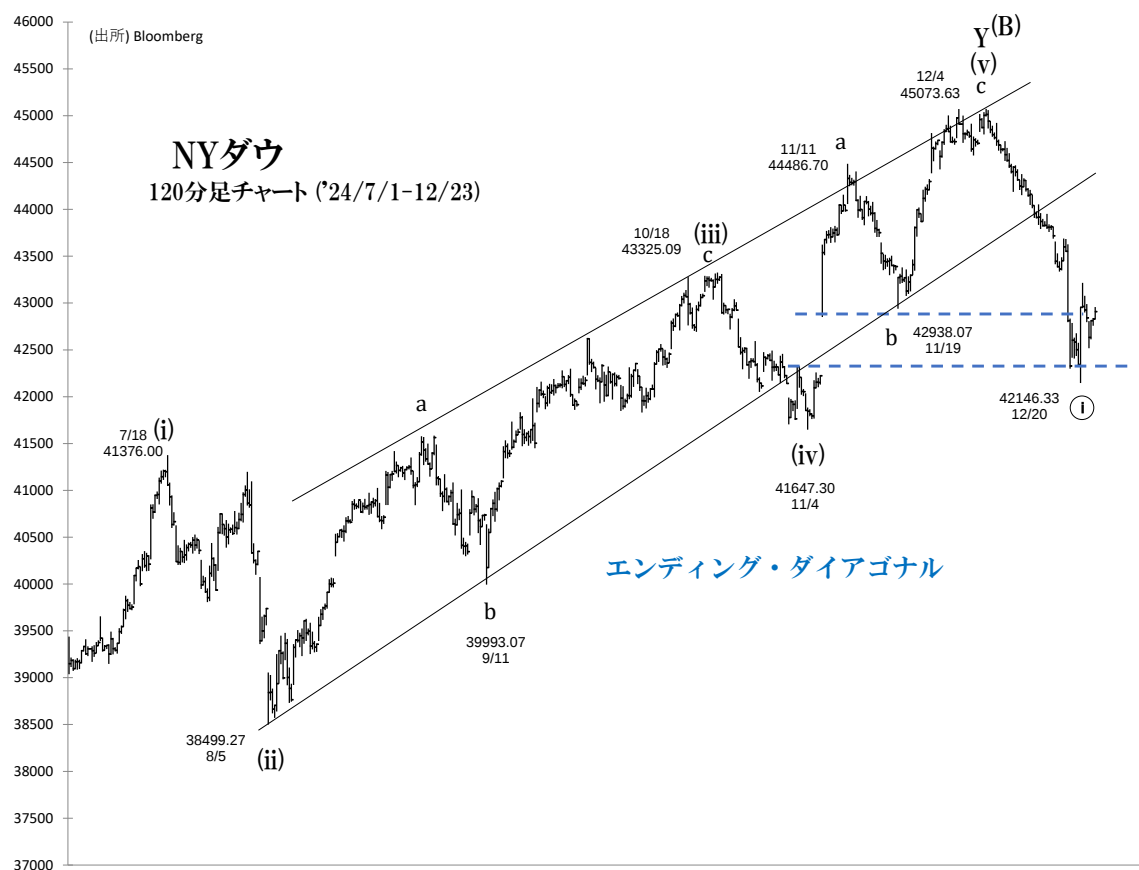
【日足 エリオット波動分析】

ダウの三指数では高値を付けた順に、輸送株(11月25日)、公共株(11月27日)、そして工業株(12月4日)です。S&P500は12月6日、ナスダック100とナスダック総合指数は12月16日に高値を付けました。

このように指数ごとの高値日にタイムラグがあるとき、相場全体は天井を付けることが珍しくありません。

NYダウは、22年10月安値(28,660ドル)以来の上昇(B)波を45,073ドル(12/4高値)で完成した可能性が高いでしょう。今は(C)波による下落トレンドの序盤に位置付けられます。

(C)波に入っているのであれば、それは先々、22年10月以降で一度もなかった大きなスケールの調整に発展していくでしょう。



【時間足 エリオット波動分析】

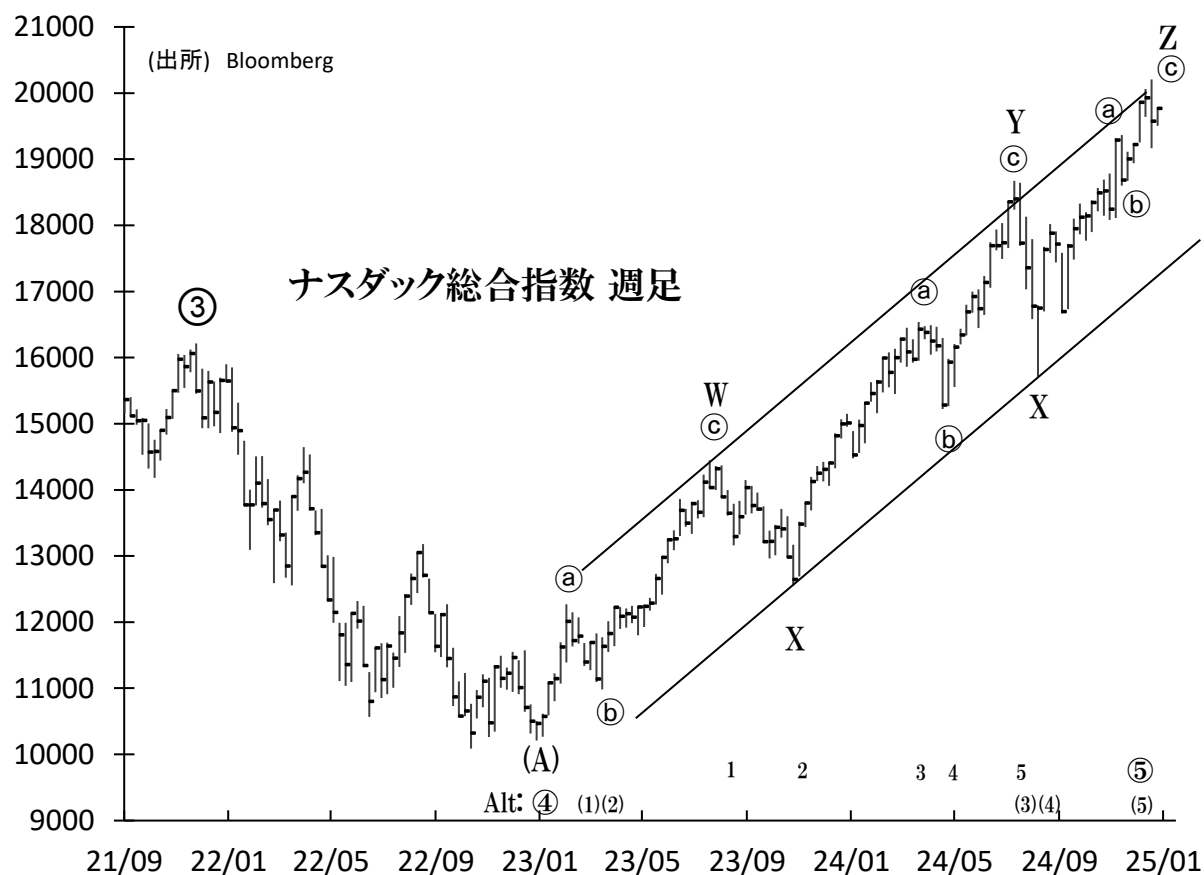
12月20日には一時42,146ドルまで下げました。米大統領選直後(11月5日～6日)のギャップ(42,258ドル～42,850ドル)は埋め戻され、それは「トランプ・トレード」終了を証左しています。

足元はマル ii 波によるリバウンドとみられ、想定レンジは[43,264ドル-43,955ドル](マル i 波の 38.2%-61.8%戻り)です。このレンジをメドにリバウンドを終えると、次はマル iii 波による下落局面を迎えると予想されます。

ひとたびマル iii 波入りとなれば、それは 41,647ドル(11/4 安値)を明確に下抜くでしょう。

さらに 41,647ドル割れをトリガーに、37,611ドル(4/18 安値)＝ダイアゴナル始点を目指す、下振れの動きを強めるでしょう。

ナスダック



【週足 エリオット波動分析】

22 年 12 月安値(10,207)以来の上昇は、④-(B)波による上昇とカウントされます。それは[不規則天井(イレギュラー・トップ)]であり、パターンは[トリプル・ジグザグ(W-X-Y-X-Z)]です。

プリファード(優先)カウント

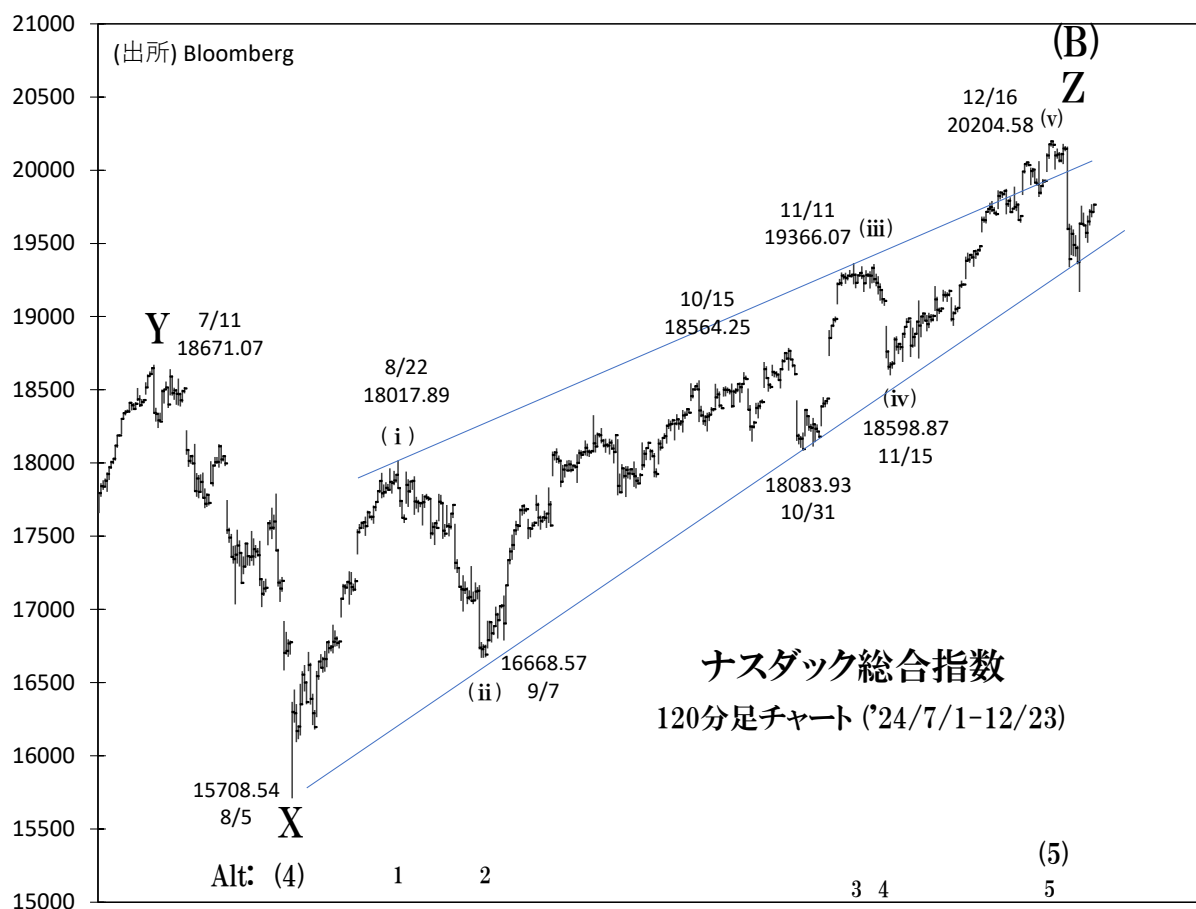
20,204(12/16 高値)を以て、④-(B)波は完成し、(C)波による下落入りの可能性を指摘できます。

(C)波は(A)波(21 年 11 月～22 年 10 月、高値から 37%調整)と同等か、それ以上のスケールの下がるでしょう。

オルタナティブ(代替)カウント

22 年 12 月安値からの「五波動」による上昇第⑤波は終わった可能性があります。

これによれば 25 年以降ナスダックは、上記の優先カウントよりも深く長い調整局面を迎えるでしょう。



【時間足 エリオット波動分析】

15,708(8/5 安値)からの[ダイアゴナル]による上昇パターンは、20,204(12/16 高値)を以て完成したとみられます。上昇の最終局面において、8月-11月の高値を通るレジスタンスラインを上抜きましたが、このスローオーバー(throw-over)は、ナスダックのピークアウトを暗示するものでした。

19,168(12/20 安値)からは、マル ii 波によるリバウンドとみられます。この見方通りなら、**マル ii 波は 20,204 を上抜くことはなく、いつ次のマル iii 波による下落が始まってもおかしくありません。**

25 年明け早々にも、マル iii 波スタートの可能性があり、それは 8 月安値からのサポートライン(ダイアゴナル下辺)を明確に破ることでしょう。

米ドル/円



【月足・エリオット波動分析】

151.899 円(22/10/21)から⊗波「円高局面」が進行中です。この⊗波により米ドル/円(ドル/円)は、2028年4月頃までレンジ相場を形成する、というのが基本シナリオ。なお24年7月の161.938円は、15年6月・125.860円から9年目に付けた「8年サイクル高値」とみられます。

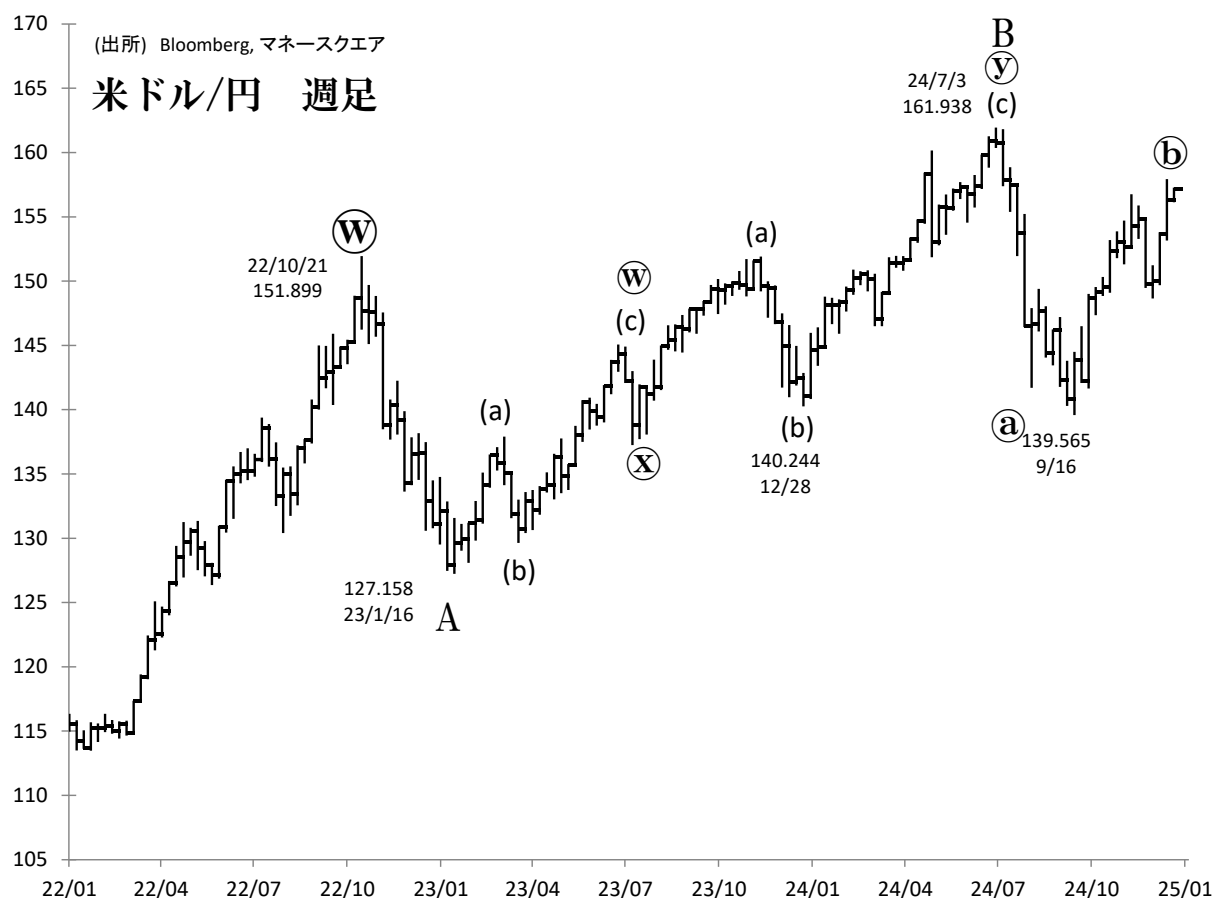
22年10月以来の⊗波が描くパターンとして大きくは、①[ランニング・トライアングル]、②[エクスパンディッド・フラット]、これら二通りの可能性があります。なお①のもうひとつのパターンとして[ランニング・フラット]もあげられましょう。

①の場合、現行C波はA波安値(127.158円)を下回りません。C波は三波で構成され、2011年からの上昇チャネルのセンターライン(↑①)が強いサポートになるでしょう。

12月中、①の水準は135.400円に位置します。

②の場合は、現行C波(五波構成)はチャネル下限(↑②)を目指すような、より大きなドル安・円高が見込まれます。12月を通じ、②の水準は115.520円となっています。

なお足元水準は、2011年からの上昇チャネル上限を上回っていますが、このようにドル/円が長期トレンドから上方を逸脱するのは今回3回目です。過去2回のケースでは(円買い介入によって)極端な円安はまもなく修正されており、今回も同様の動きとなるかに注目です。



【週足 エリオット波動分析】

161.938 円(7/3)からは、C 波によるドル安・円高です。この C 波は、三波構成(Ⓐ-Ⓑ-Ⓒ)で進展していく、と思われます。

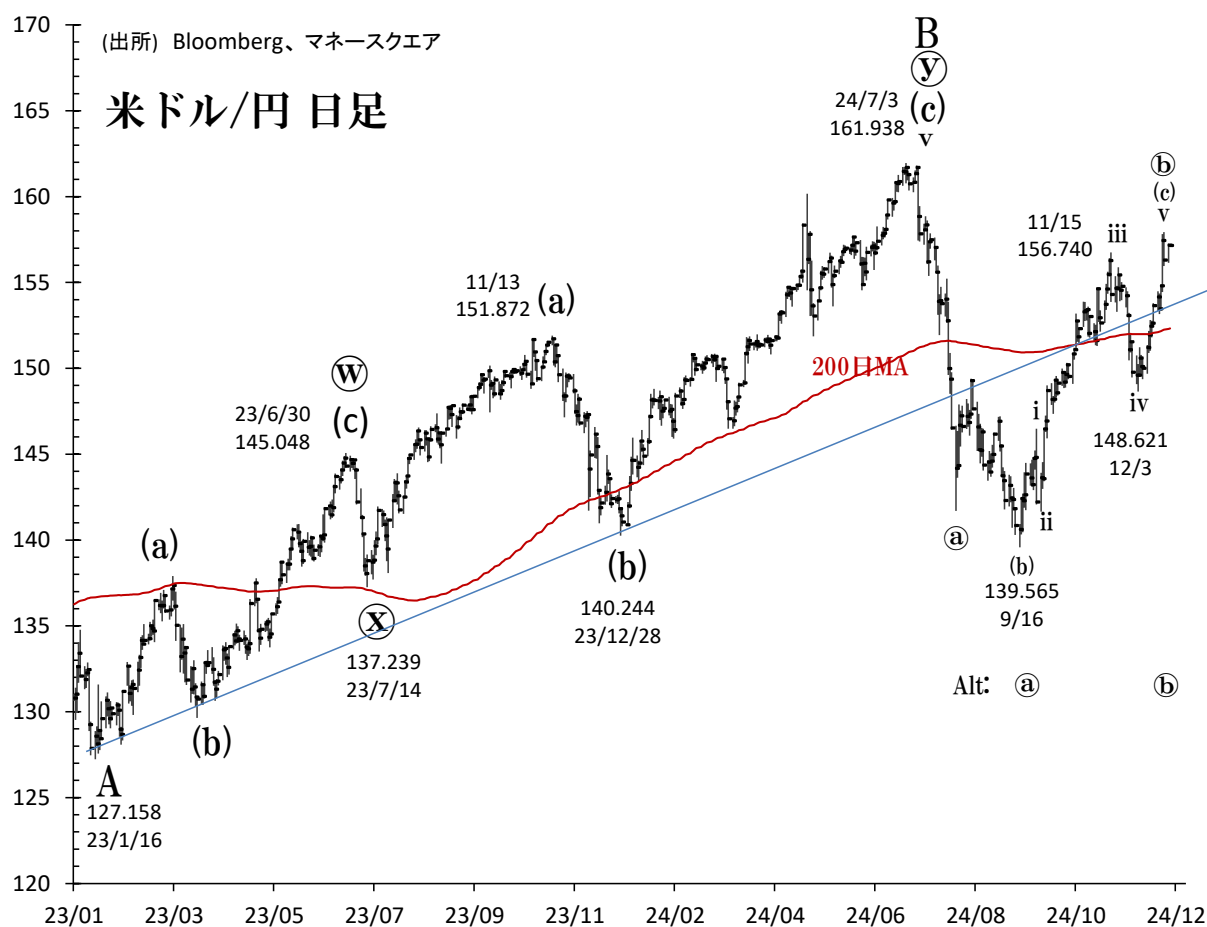
12 月 20 日、ドル/円は 5 カ月半ぶりの高値(157 円台後半)へ上昇しました。このⒷ波によりドル/円は、7 月高値(161.938 円)に次ぐ「二番天井」を付けるでしょう。

近々Ⓑ波が終了するとともに、Ⓒ波のドル安・円高が始まると予想します。

7 月高値を上抜いたときの考え方

もしも 7 月高値(161.938 円)を上抜くケースでは、「8 年サイクルの延長」の可能性が考慮されます。

8 年サイクルは、8 年±16 カ月(80 カ月～112 カ月が本来の期間であり、今回のように 15 年 6 月から始まった 8 年サイクルは、本来は 24 年 10 月までに完結するべきものです(この点からも 24 年 7 月は 8 年サイクルに相応しいものです)。しかし 161.938 円を上抜くとイレギュラーではありますが—8 年サイクルの期間は 10 年(120 カ月)まで延長されることでしょう。つまり 8 年サイクル高値を付けるのは、25 年半ばまでのどこか、と想定されます。



【日足 エリオット波動分析】

141.630 円(8/5)より、⑥波「エキスパンデイト・フラット」が展開しています。

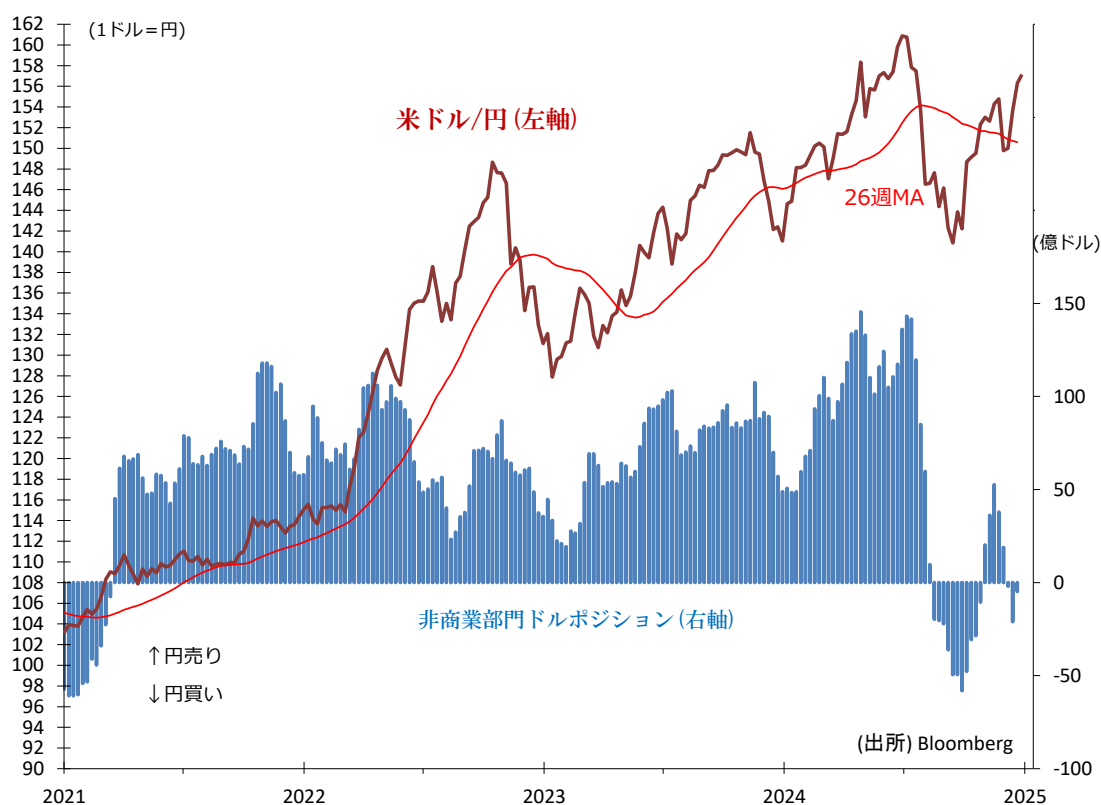
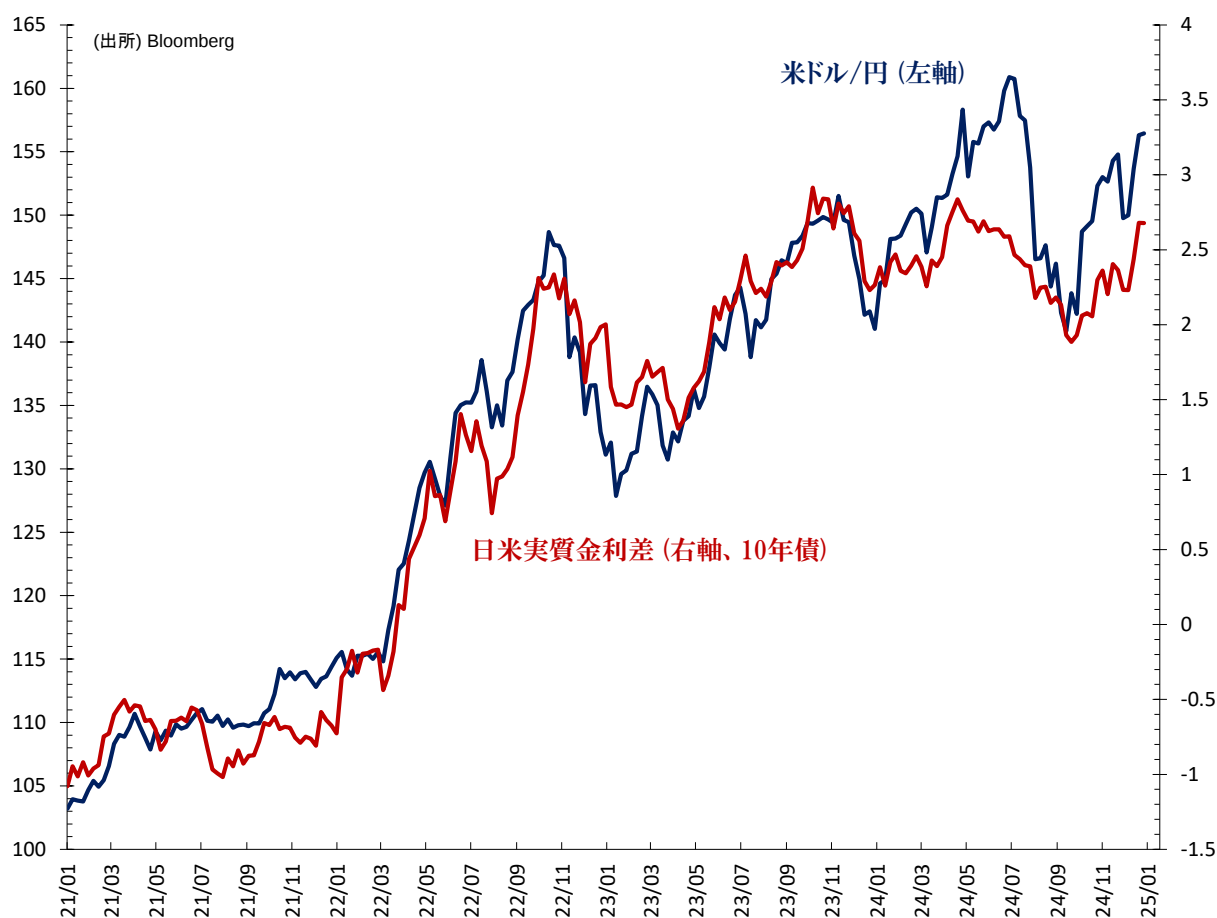
139.565 円(9/16)からの⑥波-(c)波によるリバウンドは目先のにも終了し、ドル安円高基調が再開する見込みです。25 年には 139.565 円(9/16)を大きく下抜くとみています。

金利差からのドル/円推計値

日米実質金利差からのドル/円推計値は[151.425 円]です。

投機筋の円買い持ちが縮小(12 月 17 日時点)

IMM 通貨先物市場では、投機筋(非商業部門)の円買い持ちポジションが、前週(20.95 億ドル)から 4.76 億ドルへ縮小しました。



ドルインデックス (ドル指数)



【週足 エリオット波動分析】

100.157(9/27 安値)からの B 波-Ⓒ波は、第(v)波によるドル高をやっているところです。第(v)波の起点は 105.420(12/6 安値)です。

[108.972](A波のドル安に対する 61.8%戻り水準)が強いレジスタンスになるとみられます。足元、ドル指数はレジスタンスに接近しており、ドル高はいつ終わってもおかしくないでしょう。25 年明け早々にも、トレンドが転換するかもしれません。

105.420 を下抜くと、C 波によるドル安入りの最初の手がかりが得られます。

25 年はドル安の年になる可能性が高いでしょう。

ひとたび C 波によるドル安となれば、それは 25 年中に 23 年安値[99.578]を大きく下回るでしょう。

※当レポートは、情報提供を目的としたものであり、特定の商品の推奨あるいは特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。

※当レポートに記載する相場見通しや売買戦略は、ファンダメンタル分析やテクニカル分析などを用いた執筆者個人の判断に基づくものであり、予告なく変更になる場合があります。また、相場の行方を保証するものではありません。お取引はご自身で判断いただきますようお願いいたします。

※当レポートのデータ情報等は信頼できると思われる各種情報源から入手したものです。当社はその正確性・安全性等を保証するものではありません。

※相場の状況により、当社のレートとレポート内のレートが異なる場合があります。

当社サービスに関する注意事項

・取引開始にあたっては契約締結前書面をよくお読みになり、リスク・取引等の内容をご理解いただいた上で、ご自身の判断にてお願いいたします。

・当社の店頭外国為替証拠金取引、店頭 CFD 取引および取引所株価指数証拠金取引は、元本および収益が保証されているものではありません。また、取引総代金に比較して少額の資金で取引を行うため、取引の対象となる金融商品の価格変動により、多額の利益となることもあります。お客様が差し入れた証拠金を上回る損失が生じるおそれもあります。また、各金融市場の閉鎖等、不可抗力と認められる事由により店頭外国為替証拠金取引、店頭 CFD 取引および取引所株価指数証拠金取引が不能となるおそれがあります。

・店頭外国為替証拠金取引、店頭 CFD 取引における取引手数料は無料です。

・取引所株価指数証拠金取引における委託手数料は注文が成立した日の取引終了後の値洗い処理終了時に証拠金預託額より、新規および決済取引のそれぞれに徴収いたします。手数料額は、通常 1 枚あたり片道 303 円(税込)、NY ダウリセット付証拠金取引および NASDAQ100 リセット付証拠金取引は 1 枚あたり片道 33 円(税込)です(ただし、建玉整理における委託手数料は無料です)。

・当社が提示するレートには、買値と売値に差(スプレッド)があります。流動性が低くなる場合や、天変地異または戦争等による相場の急激な変動が生じた場合、スプレッドが広がることがあります。

・店頭外国為替証拠金取引に必要な証拠金額は、個人のお客様の場合、取引総代金の 4%以上です。法人のお客様の場合、取引総代金に、金融先物取引業協会が算出した通貨ペアごとの証拠金率(為替リスク想定比率)を基に当社が算出した証拠金率を乗じた金額となります。為替リスク想定比率は、金融商品取引業等に関する内閣府令第 117 条第 27 項第 1 号に規定される定量的計算モデルを用い算出します。なお、証拠金率(為替リスク想定比率)は変動いたします。店頭 CFD 取引に必要な証拠金額は、取引総代金の 10%です。取引所株価指数証拠金取引に必要な証拠金額は、商品ごとに当社が定める 1 枚あたりの必要証拠金の額に建玉数量を乗じる一律方式により計算されますが、1 枚あたりの必要証拠金額は変動いたします。

金融商品取引業 関東財務局長(金商)第 2797 号

【加入協会】日本証券業協会 一般社団法人 金融先物取引業協会
株式会社マネースクエア
